

⑤ 千葉市立稲毛高校との高大連携に関わる研究事業

1. 研究組織

研究代表者： 鈴木理枝（東京情報大学・教授）

研究分担者： 加納佳代子（東京情報大学・看護学部設置準備室）

堂下浩（東京情報大学・教授）

担当部局： 千葉市教育委員会事務局教育総務部企画課、千葉市立稲毛高校

2. プロジェクトの目的

近年、大学の存在意義が問われ、大学での研究がより密接に地域社会へ還元できることが強く求められている。昨年度より、千葉市立稲毛高校と高大連携を目指し、千葉市に位置する本学が地域貢献できる大学として、稲毛高校との連携を開始した。また、連携を通して、大学生と高校生の交流がより一層深まり、相互の成長を高めあう関係を期待する。

更に、大学での研究活動が、大学と高校を結ぶパイプになり、千葉市における教育レベルが高められることを目的とする。

3. プロジェクトの実施内容

12月17日(土) 異文化理解講座(海外語学研修発表会) 審査員として参加
普通科2年、国際教養科2年が、アメリカ・カナダ・オーストラリアに海外語学研修をした成果の発表を審査した。

1月6日(金) ナイジェリア大使館を訪問

稲毛高校の15名の高校生と本学の学生及び院生6名が参加。行きのバス内にて、鈴木が「ナイジェリア大使館での異文化社会での勤務」、「通訳になるには」について話し、及びナイジェリアの文化と一般的知識について講義。

到着後、大使館長による、ナイジェリアの政治、経済、文化についての講義を聞き、質疑応答。大使館長が丁寧に一人一人の質問に答えてくれ、非常に有意義な勉強会になった。外交官という仕事に興味を持ち、真剣に仕事内容、外交官になる上で必要な資質、知識等について質問していた。

1月17日(火) 「総合的学習の時間」におけるクラス発表に関わる指導助言

各班の準備状況参観・指導助言・リハーサル参観指導助言・講評

1学年総合学習の成果発表の指導助言。テーマは、千葉市の環境問題、放置自転車、海・川に関する環境問題、ごみ問題、交通問題等、様々なテーマをグループで調査した。その後、取り纏め、資料作成、発表の準備をした。内容についての助言及び、発表の仕方についての指導をした。

2月7日(火) 「総合的学習の時間」各班の発表参観

指導助言・審査・講評

各クラス6チームの中から一番評価の高いチームが1チーム選ばれ、各クラスの代表班が8チーム選ばれた。

2月21日(火) 「総合的学習の時間」各クラス代表班の発表参観

審査・指導助言・結果発表・講評

各クラスの代表班8チームが発表。

4. プロジェクトの成果

昨年度から開始した稲毛高校との高大連携を通して、高校における「総合的学習の時間」に実際に参加することができた。参観、実際の指導助言、審査員、講評に関わることにより、より深く高校教育の内容が理解できた。稲毛高校が目標に掲げている、「問題解決の主体的・協働的に取り組む力を育成し、生徒の自己肯定感やチャレンジ精神を向上させる」、「将来、地域やグローバル社会の発展に貢献する生徒を増加させる」に基づいた事業に東京情報大学として、高大連携で密接に関わることで、連携が強まった。実際に関わることにより、高校教育の変化に気づくことができた。生徒の主体性を向上させる指導をしており、机上の学問ではなく、地域に根差した教育、地域貢献、社会貢献できる学びを目標に実施されていた。広大連携において、大学に入学してくる学生が、高校においてどのような教育をなされてきたのか理解することで、大学における教育の質も確実に上がってくると考える。

ナイジェリア大使館での異文化経験も、語学の習得のみではなく、異文化を理解し、異文化を許容できる寛容性が身につき、高校生と大学生の視野が確実に広がったことが感じられた。今後も、稲毛高校との連携を通して、より進化した関係を構築する。

以上